

民意排除の「二大政党」延命

民主の比例定数80削減案

民主党政治改革推進本部は7日の総会で、衆院の選挙制度改革に関する同本部案を提示し、この中で衆院比例定数の80削減を改めて明記しました。部長の岡田克也幹事長は「最終的に決定するのは次の執行部の仕事ではないか」と述べ、党としての意見集約は「先送り」する姿勢を示していますが、少数政党排除を狙う比例定数削減は重大な局面を迎えています。

同本部のメンバーは「あと1〜2回議論して政治改革推進本部としての案を決める」とし、今後、「大連立」を含む自民、公明両党との連携の中で、「選挙制度改革の論議は柱の一つ」と述べます。

自民党は比例30削減案を提示しています。

比例80削減案について民主党幹部の一人は、「もともと小選挙区と比例が並立するというのがおかしい。衆院では、最後は小選挙区一本というのが20年前の制度改革の方向で、議員定数を減らすとすれば比例の部分だ」と明言します。少数政党排除、「二大政党」体制の純化は「当然」という認識です。しかし、小選挙区制を基礎と

する「二大政党」政治の現実には国民はあきらめてはいます。

菅民主党政権は、原発再稼働問題で迷走。再稼働へ「安全宣言」したものの、住民の不安と怒りに押され「ストレステスト（耐性試験）」や「新指針」作成を言わざるを得なくなり、九州電力の「やらせメール」問題での不信も加わって再稼働不能の状況に追い込まれています。

自民党は、もっぱら菅政権の事故対応の拙さを攻撃しつつ、原発事故への最大の責任者としての反省も、政策転換の方向も示しません。

震災対応では、「首降ろし」をめぐる政争に明け暮れ、最低限の復旧、支援策の多くが手つかずで、遅れた状態が続いています。

一方、消費税増税、TPP（環太平洋連携協定）推進、米軍普天間基地の辺野古移設などでは、旧態依然たる政治に民主・自民双方がしがみつき、行き詰まりを深めています。

各メディアの世論調査では民主、自民両党の支持率はともに下落傾向で低迷。時事通信の6月調査では民主12・8%、自民14・6%、「毎日」の7月2、3日の調査では民主13%、自民16%で、両党合わせても30%に達しない状況です。

このもとでの比例削減の強行が、「原発からの撤退」をはじめ、国民多数の声を国会から排除し、国民の声を無視する政治をもたらすことはいよいよ明白です。原発反対・震災復興から新しい社会づくりをめざすうえでも、少数政党を排除し、「二大政党」の党略的「延命」、独裁体制づくりをめざす比例削減の動きには警戒が必要です。

2011年7月9日(土)「しんぶん赤旗」

本紙スクープに注目 ネットで話題に

「笠井亮さん、お手柄だよ」「やりましたね!」「これを暴いた赤旗恐るべし」「九電の“やらせ”メール事件を追及し、政府に非を認めさせた日本共産党の笠井亮議員の質問がネットで話題になっています。ツイッター(短文投稿の閲覧サービス)から拾ってみると。

東日本地震への

救援募金にご協力を

日本共産党は被災者の救済・支援のために、救援募金を呼びかけています。

【郵便振替口座】

0017017198422

名義は、日本共産党中央員会です。

送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、かならず、「地震救援募金」である事を明記して下さい。ご協力よろしくお願ひします。

磯城郡日本共産党議員団

6日のテレビ中継から注目されました。「笠井亮さん、やりましたね!」TV見ながら、思わず膝をたたきました。思わずキーボードをフラインドタッチ」と軽いタッチで打ち込んできました。「共産党GJ(グッド・ジョブ)良い仕事をした)。これで流れが運転停止にひっくりかえった功績は大きい」と評価する書き込みも。実際、7日に玄海町長が玄海原発再稼働容認を撤回する流れを引き起こしています。

質問翌日に各紙が大きく報道したことでさらに弾みが出ました。

他紙に先がけた「赤旗」のスcoop記事に注目が集まっています。

「赤旗、早かったですね。あの号だけ入手して読みました。一党一派に属さない主義なんです、敬意を表したい」「他の大手メディアは取材能力がないのか、九電とグルで口をつぐんでいたのか。国会で問題になってから大騒ぎしている」との声も。今、調べた。九電のやらせメール、どのメディアがすっぱ抜いたのかと。ソースは7月2日の赤旗だった」と調べた人もいます。

各紙が九電社長の謝罪を報道しながら、追及したのが日本共産党の笠井議員であることを書いているのは一部のメディア。

「誰の質問だったかも書いていない。私は見てたぞ、共産党の笠井さんが質問していた。民主や自公ならかくのに、なんかおかしい」と突っ込みを入れる人も。「国民はこの際、読売やめて赤旗をよもう。赤旗にも巨人はあるぞ」という意見もあります。

2011年7月8日(金)「しんぶん赤旗」



日刊●月2,900円
日曜版●月800円

2011.7.12 NO.509
日本共産党

磯城郡議員団だより

和也 Eメール info@k-shiba.jp
西町結崎862-7 0745-43-2415
吉田容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木113-5 090-5257-4446
森良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵281-1 0744-33-8570
(事務局)池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風440-5 0745-43-2661

農業委員会委員選挙

今月五日本町の農業委員会委員選挙が告示され、定数十四にたいし、十四名が立候補され無投票で当選が決まりました。

松本嘉方（八田）石田弘（宮森）吉川正之（法貴寺）松本雅史（八尾）

吉川宗隆（宮古）上田高明（西代）藤本圭一（矢部）西浦正嗣（味間）安田喜代一（為川北方）小島一晃（千代）福本安次（佐味）栗山佳二（大網）大倉康至（多）藤本凱弘（西竹田）みなさん当選おめでとございます。

農業委員会の役割は、農業生産力の発展及び農業経営の合理化を図り、



田原本町議会 議員 吉田 容上

なくそう冤罪 関西市民集会

「なくそう冤罪 救おう無実の人々 関西市民集会」が9日大阪市内で開かれ、参加してきました。

最初に、冤罪の罪でたたかっている関西の被害者たち（奈良・香芝強制わいせつ事件等9事件）の映像が紹介され、今年の春に晴れて無罪になった布川事件の桜井昌司さんが約40分近くにわたって講演、「今まで背中に紐がつけられていた。無期懲役という紐が、選挙権もなく、旅をするにも届けなければならぬ、など引つ張られていたが、晴れてなくなりました。まさに肩の荷が下りたという感じだ」と裁判後の感想を語っておられました。

二部は、里美繁氏（関西大学社会学部教授・毎日放送に勤務しながら

「冤罪」をテーマにした番組、10本近くを制作。ドキュメンタリー部門で入賞）から「冤罪報道とジャーナリズム」と題して講演がありました。里美さんは講演の中で、高槻市で1986年に起きた選挙違反事件（自民党の京極候補の支援のため飲食を通じて票の取りまとめを行った）で市議や後援会員等147名が公職選挙違反で検挙されたが、当初は誰もが否認したが全員が「自白」に転じた。その後の裁判で警察、検察の過酷な取り調べ状況が明らかになり、91年大阪地裁は全員無罪を言い渡した事件、布川事件を通じて冤罪事件が作られる警察、検察のやり方が体質として依然と維持されていると明らかにすると、



池田 年夫

原発撤退署名

八日、近畿地方の梅雨明けが発表されました。先週も触れましたが、今年梅雨入りが早かった分、明けるのも早かったようです。どうか分りませんが、その分、夏本番が長くなるかも知れませんが、熱中症等にはくれぐれもご注意ください。

私が、声掛けをした中では、かなりの比率で福島原発事故以来、放射能や放射線に対する関心をもち、明けるも早く、先週も触れましたが、今年梅雨入りが早かった分、明けるのも早かったようです。どうか分りませんが、その分、夏本番が長くなるかも知れませんが、熱中症等にはくれぐれもご注意ください。

さて、夏本番が到来する中、脱原発に向けた取り組みの一環で、原発からの撤退を求める衆参両院議長あての署名の取り組みを始めますので、原発依存からのエネルギー転換を求めておられる皆さん、ごぞつてご協力ください。よろしくお願います。

川西町議会議員 芝 和也



健康法

先日、新人議員研修会があり、「働き盛りの健康法」という題名でトータルフィットネスインストラクターの西本真寿美さん（五十代）が実践も取り入れながら講演して下さいました。

壇上でマイクも使わず、ピンと張りつめた声で、まず、「青春とは何歳から何歳までと思えますか？」と問いかけられました。

私は「この人、すごいパワーやな！」と心をわしずかみされました。

「青春は、年齢に関係ないのです」と言われ、私も全く同感！ご本人はスリムな体型、ハツラツとした動作、まさに健康そのものだと思いきや、先天的なすい臓の奇形で

今も薬を呑み続けているというのには、驚きました。「老化プラス退化、つまり身体は使わないと衰えていくという事！」と、後日、私は朝、ラジオ体操をやってみたら、身体はこわばり、スムーズな動きが出来ません。「これではいけません」と反省しきり。

この西本さんの座右の銘は「健康の為に牛乳を飲む人よりも、牛乳配達人の方が健康である」と聞いて、なるほど！と納得。

私も、健康維持のため、一日五分のストレッチと正しい姿勢を頑張ろうと！



田原本町議会議員 森 良子